



京都大原記念病院グループ

KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

No.251

「和音」編集室

京都大原記念病院グループ

〒601-1246

京都市左京区大原井出町

164番地

TEL (075) 744-3160

FAX (075) 744-3161

Mail kyotoohara-hp@kyotoohara-gr.jp

<https://www.kyotoohara.or.jp>

2020年

8月

AUGUST

時代と向き合い39年

京都大原記念病院グループの歩み

人々の「安心」支え続け

京都大原記念病院建設以前の大原地区



京都大原記念病院グループの歴史は1981(昭和56)年、大原に初の医療機関として「大原記念病院(当時)」が開設されたことから始まりました。以来、グループは「時代がどのように変化し、人は安心のために何を求めるのか」ということに向き合い続けています。「和音」誌では7月4日に創立39周年を迎えたことを受け、創業者である児玉博行代表の思いとともに、グループの歩みの転換点を振り返ります。

第一章 柱はリハビリテーション

開設当時の京都は明らかに医療の過剰提供状態にあり、社会的入院[※]が問題視されていました。患者様が安心して尊厳ある人生を送るため、自院が担うべき役割は何か。そうした視点で着目したのが、脳卒中などの後遺症を抱える患者様に集中的な訓練を施し、社会復帰をサポートする「リハビリテーション(以下、リハビリ)」です。社会的認知度は極

めて低く、国家資格を有する理学療法士も稀有な時代でした。1984年に初めて一人の理学療法士を採用して以降、布石を打ち続け、1992(平成4)年には京都で民間初となる「リハビリ総合施設基準承認」、2000年には制度化とともに京都府下初の「回復期リハビリ病棟導入」と歩みを進めました。



社会復帰をサポートするリハビリテーション

※社会的入院：入院治療が終わっても、家族や福祉施設などへの受け入れがかなわいため入院を続けている状態。



第二章 医療・介護・福祉を一体化

医療の現場で、多くの死に立ち会う中、「すでに意識のない高齢者を延命のために集中治療室で治療する。手術を受けたから最後までそのまま過ごす。これらは本当に良いことなのか」との思いがありました。医療だけでなく介護、福祉を一体的に提供することにより最後まで安心して過ごせる仕組みを志し「介護老

人保健施設博寿苑(1991年)」「特別養護老人ホーム大原ホーム(1997年)」を、病院と同一敷地内に開設しました。独立した施設が廊下伝いで結ばれ、医療・介護・福祉“三位一体”で安心を提供する全国的にも数少ない施設群が誕生しました。この地で培ったノウハウを礎に、在宅サービスに視野を広げ市



ドローン撮影したグループの中核施設

内一円に事業展開しました。

第三章 最後まで暮らせる住まい

病院や施設を出た高齢者が安心して過ごせる「高齢者住宅」の試行も重ねていました。大原三千院の参道の民家で開設した「ぬくもりの家(1996年)」、現在のグループホームやすらぎの家の2階で医療必要度の高い高齢者を対象に開設した「大原うぐいすの里(1999年)」です。小規模の高齢者住宅に訪

問診療や訪問看護・介護・リハビリテーション、配食などを提供し、安心して過ごせる環境づくりに向けてノウハウを蓄積しました。いずれも「ケアハウスやまびこ(2002年)」「ライフピアハ瀬大原I番館(2006年)」へ継承されています。現場で目にする「退院後の安心」というニーズに応えるための、制度に頼らない前例



安心して過ごせる環境づくりに取り組むライフピアハ瀬大原I番館

なき展開でした。

第四章 京都から全国への発信

2006年「リハビリ難民」という言葉が社会的にクローズアップされました。先進的にリハビリに取り組んで来た自負のもと、そのあり方を全国に発信^{*}します。グループが示した提案が「御所南リハビリテーションクリニック(2013年)」です。大学病院、急性期病院との信頼関係を礎に「通院で回復期リハビリ病棟と

同レベルのプログラムを提供する」という新しいコンセプトで存在価値を高めています。2018年には「京都近衛リハビリテーション病院」を開設しました。本院を含む3拠点連携のもと、リハビリや、それを中心とした地域を支える医療・介護体制のあり方を全国に発信し続けています。

*2008年、一層京都に根差して全国へ発信するため、大原記念病院グループを“京都”大原記念病院グループへ、大原記念病院を“京都”大原記念病院に名称を変更しました。



京都近衛リハビリテーション病院



御所南リハビリテーションクリニック

第五章 地域に根付き生涯現役

誰もが、生涯にわたり自分が望む方法で社会と関わりながら生き続けることができる生涯現役社会に向け、内閣府、京都府の共同補助事業「大原健幸の郷」がスタートします。リハビリの経験に基づくプログラムで地域の健康を支え、また交流拠点として地域活性化へ

の貢献を目指します。

京都大原記念病院グループは時代の変化、患者様・ご利用者のニーズの変化と向き合い続け、リハビリを中心としたきめ細やかな医療・介護サービスを面展開することで安心を提供する、総合ケアネットワークを築きました。サービスの



大原健幸の郷

原点は「人の心に寄り添い不安を取り除くこと」と認識し、これからも社会のニーズに応え続けます。

永年勤続46人を表彰

介護福祉士取得13人も

京都大原記念病院グループの永年勤続者表彰式が7月3日、大原ホーム地域交流スペースで開かれました。例年、創立記念祝典の一環として職員懇親会に先駆け実施していますが、今年は新型コロナウィルスのまん延により、単独での開催となりました。

本年の永年勤続表彰者は、勤続30年が3人、勤続20年が11人、勤続10年が32人で、京都大原記念病院、京都近衛リハビリテーション病院、博寿苑、おおはら雅の郷など多くの施設から対象者がありました、資格取得では介護福祉士13人が対象に選ばれました。

式には勤続30年の川勝久美子さん（八瀬大原I番館）、高岡佐和子さん（京都近衛リハ病院）、浅田朋子さん（大原ホーム）と、勤続20年を代表して森麻衣子さん（医療連携室）が、10年を代表して田井勇亮さん（博寿苑）が出席しました。ウイルス感染予防のため出席者を減らす意味から、資格取得の表彰式は割愛されました。出席者も約50人に絞られ、約1メートルの間隔をとって着席しました。

表彰者を代表して川勝さんが「児玉



大原ホームにて

アナベル 長く楽しめるアジサイ



初夏より冬まで季節を追って色を変えながら、優しい存在感で見る人を楽しませてくれるアジサイです。一般的なアジサイと違い、アナベルは11月頃に剪定すれば翌年の初夏には咲いてくれるので、長い間観賞を楽しめます。大原ホーム前にもアナベルが今年も咲きました。皆さんを楽しませてくれると思います。

(総務部 榎並宏之)

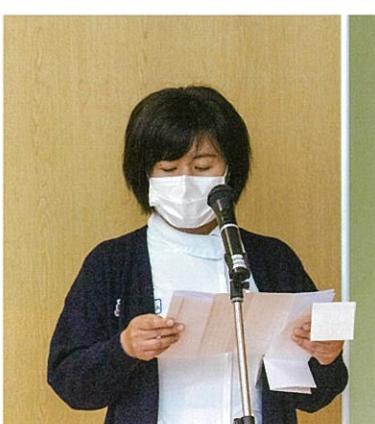
コロナウイルスについて語る児玉代表



これまでの対策について報告する垣田院長



謝辞を述べる川勝さん



京都大原記念病院グループ・表彰式



ウイルス感染に備え出席者を絞り椅子を離して式を進行

代表を始めとした皆様方の温かいお力添えのおかげでこの日を迎えることができました」と謝辞を述べました。

コロナ感染ゼロに感謝

—児玉代表・垣田院長—

式に先立ちグループの危機管理室長を務める垣田清人・京都大原記念病院院长が、これまでの新型コロナ対策について報告を行いました。この中で垣田院長は「ウイルスの特徴も分からぬ中で突入した闘いでしたが、職員の努力と患者様やご利用者の協力でウイルスを院内に持ち込むことなく過ごすことができています。東京や京都のクラスターを見ていると、第二波の兆しを感じますが、私たちには第一波を闘ってきた学習効果もあります。単に制限を強化するだけでなくどうすればウイルスを防ぐことができるのか、対策をしっかりと立てていきたいと思います」と語りました。また児玉博行代表も「コロナウイルスという人類史上にもほとんど例のない非常に煩わしいものが出てきています。世界各国で緊急事態宣言が出され、経済は萎縮し各病院も混乱していますが、幸い当グループでは患者も陽性者も出していません」と語り、職員をねぎらいました。

水無月食べ悪魔祓い

6月30日、行事食で提供

1年の折り返しとなる6月30日は、京都のあちこちの神社で茅の輪をくぐり、半年の穢れを払う「夏越の祓」が行われ、無病息災を祈ります。

栄養科では当日のお食事に、茄子などの夏野菜と海老の天ぷらや、この日には欠かせないお菓子「水無月」を用意しました。

水無月を食べる風習は平安時代からあり、水が大変貴重であったため、庶民は水に似せた水無月を食べました。外郎の上に、悪魔祓いの意味のある小豆がのったこのお菓子を、毎年楽しみにされている方多くいらっしゃいます。

ご利用者からは、「おいしかったよ!」「久しぶりに豪華なものが食べられました」とうれしい感想をいただきました。天ぷらはいつも人気で、「海老がプリプリしていておいしい」と今回も大変好評でした。水無月



夏野菜や水無月などで無病息災を祈願する「夏越の祓」の行事食

を作ったことや茅の輪くぐりに行ったことなど、ご利用者の思い出話をうかがいながら、皆さんのお話を伺いました。

(栄養科 井上亜砂子)



願い事書いて 七夕の笹飾り 八瀬大原I番館

ライフピア八瀬大原I番館では、ご入居者と一緒に七夕の笹飾りを作成しました。今回の笹は事務当直職員にお願いし、自身の山からとつけてくれた天然の立派なものを使いました。

6月末よりご入居者と一緒に笹の装飾準備を行ったのですが、普段は控え目な方が、折り紙とはさみをお渡しすると器用な手さばきで装飾品を作成され、3日程かけて作成予定だった装飾品は皆様のおかげで、わずか1日で完成しました。ご入居者が短冊に書かれた願い事は「健康になりたい」「美味しい食べ物が食べたい」「穏やかに過ごしたい」といった内容がほとんどでした。

職員も短冊に願い事を記入し「ご入居者が安心して毎日過ごしていただけるように」とお祈りました。梅雨ということもあり、短冊には様々な願い事があつた



七夕の当日は豪雨となりましたが、願い事で記入された内容に少しでも近づけるよう私達職員も日々真心こめたサービスを実施していきたいと思います。

(八瀬大原I番館 高木哲也)



心臓マッサージの方法を学ぶ院内保育所の保育士

で説明してくれるので覚えなくて大丈夫です。事故の際には大あわてになると思うが、落ち着いて手順通り操作してください」などの説明を受けていた。

京都大原記念病院グループウェブサイト
公式Facebookのご案内

グループの取り組みなど日々、更新中!
自然災害等により何らかの影響が生じた場合は
こちらで情報発信します。ぜひこちらをご覧ください!



ウェブサイト



Facebook

心臓マッサージ学ぶ

院内保育所で救急訓練

水の事故が増える盛夏を前にした7月2日、京都大原記念病院グループの院内保育所で救急訓練が行われ、同所の保育士が心臓マッサージの方法やAED(自動体外式除細動器)の使い方を学んだ。

京都市消防局左京消防署大原消防出張所から青木司令補、村上士長の消防職員2名が講師を務め、村田保育士ら5人が受講した。成人と幼児の二体の人形を前に「幼児の場合は指2本で押してください」など正しいマッサージの方法を消防職員が披露。保育士は交代で成人の人形の心臓部分を30回ずつ圧迫し、要領を確かめた。

AEDについては、「操作法は機械が音声